



ハーモニカ奏者「かつくん」

各務雄太さん（24歳） 〓 両神 〓

高校三年の夏に、各務雄太さんはハーモニカを初めて手にした。飛騨高山に住む祖父がくれた小遣いで買った。二週間後、ボランティアで草むしりをしていて「師匠」に出会った。そのグループホームに通う老人がハーモニカの名手だったので「しどろもどろの演奏ながら」一緒に吹いて覚えたという。

雄太さんは高校二年で、日商簿記検定三級に合格。その後運転免許も取得して、名



古屋市の会社に就職口もあった。周囲に「自活をめざすべき、ハーモニカは趣味で」の意見もあつたが、音楽活動を始めていた地元からは離れられなかった。以来、寡黙な息子雄太さんと、饒舌なマネージャー兼司会者の父定雄さんのコンビで活動を続けている。

「かつくん」は名字の「かつくむ」から。小学校時代からの親友に同じ「ゆうた」君がいたので付いたニックネーム。「ゆうた」君たちは雄太さんをいじめから守ってくれた。雄太さんは当時、文章題を除けば算数満点の少し変わった子だった。「ゆうた」君たちが家を離れたので会うことは少なくなつたが、今は親友「ゆうた」

君の父が「かつくん」こと雄太さんにハーモニカを習っている。どうしても「かつくん」のように『月の砂漠』を吹きたいので。ハーモニカ奏者「かつくん」のレパートリーは童謡唱歌を中心に現在約80曲。右手でオルガニート（パンチカード式）の手回しオルゴールを回しながら、左手のハーモニカを吹く。「あまり練習はしない。数字に強いので曲はすぐに覚えやすい」と話す。ハーモニカの楽譜は、五線譜の下にある数字で吹き口の位置を示している。「ステージでは緊張するけれど、最初の一音を出せば落ち着く」という雄太さんは自主演奏会12回を含めて、六百回を超えて演奏を披露してきた。フルートやギター、ピアノや打楽器と合わせることもあつた。年に一度、被災地石巻へ通つて支援のための演奏会も続けている。

良い思い出は切りがないが、最近印象に残るのは飯山の「朧月夜音楽祭」に出演した時のこと。菜の花に囲まれた野外ステージで気持ち良く演奏できたうえに「音楽祭にすばらしい演奏で活を入れてくれた」と感謝された。

「自分の演奏にはまだ何かが足りない。今のところは童謡唱歌を究めたい。特に全国の子どもたちにハーモニカの良さを伝えたい」という雄太さんと、父定雄さんの二人三脚は、演奏活動にとどまらない。特殊機械の維持管理の仕事も一緒、発達障害への理解を広めるグループ「レインボークローバー」での活動も一緒だ。定雄さんは「発達障害を持つ『かつくん』がステージでこんなにできる」ことを知ってほしいと自信を持って話す。雄太さんは小諸市青少年補導員。

ゆるさんの四季の薬膳
夏。緑茶の出番だ
年々、冬は寒すぎ、夏は暑すぎるって思いませんか。当然自然災害も増加。環境が厳しさを増すなか、からだは必死に適応しようと頑張っています。これからの猛暑、頑張るからだへの助っ人を今回は紹介したいと思います。
助っ人って？なんと、どこかの家庭にもある緑茶です。緑茶は体内の熱を取り除き、余分な水分を排出する一方、必要な体液を生み出す効果があります。からだを冷やす働きがあるため、冬よりも実は夏におススメのお茶です。爽快感があるため、疲れてだるいときにも力を発揮します。
では、緑茶がよりパワーアップする「葉茶」を紹介しましょう。暑気あたりのときは、「塩茶」を。緑茶10gに塩5gをお湯を注ぎます。また気管支炎で痰が多いときは「大根茶」。緑茶5gにおろし大根100g、塩少々加えて湯飲み1杯のお湯を注いで飲みます。便秘やのどの痛みには「黒砂糖茶」で。緑茶3gに黒砂糖5g加えてお湯を。緑茶ってスゴい！
(国際中医薬膳師 小清水由良)